

河北潟の水辺と農地 かほくがたへでかけよう

NPO法人河北潟湖沼研究所



河北潟 かほくがた
石川県で一番大きな湖。金沢市、かほく市、津幡町、内灘町にまたがる。面積5.96km²。かつて汽水湖であったが、1963年からの国営干拓事業により淡水湖となった。東側は水田が広がり、西側は内灘砂丘で日本海と隔てられている。干拓されてできた河北潟干拓地は広さ13.56km²、干拓地内には畑や水田、牧場等が広がる。

NPO法人河北潟湖沼研究所 平成28年3月発行
〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9
TEL 076-288-5803 / FAX 076-255-6941
E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp
U R L http://kahokugata.sakura.ne.jp
平成27年度 地球環境基金の助成を受けて制作しました。



河北潟で活動しよう

豊かな水辺と農地を持つ河北潟地域には、たくさんの人が集まり、いろいろな活動をしています。湖岸植生が豊かな河北潟の水辺、平野に広がる周辺の水田地帯、牧場や麦畑がつづく広大な干拓地、日本海も河北潟も一望できる内灘砂丘、そしてここに生息するたくさんの生きもの。多様な環境にいろいろな魅力が詰まった河北潟地域ですが、一方でヨシ原の衰退や外来植物の繁茂、希少生物の減少など、生物多様性を脅かす状況も見られます。そこで河北潟では市民、農家、行政、NPO等が協働して、改善に取り組んでいます。外来植物の除去活動と堆肥化による有効利用、田んぼを守り潟を守る米作り、水辺に親しむ公園の市民協働によるメンテナンス、水辺の植物を活用した遊びを交えた水辺保全活動・・・、一人一人が力を合わせれば、より良い地域に改善できます。あなたも活動に参加してみませんか？



河北潟の調査・研究

河北潟湖沼研究所では河北潟の生態系、水質、地域振興のための基礎研究、河北潟に関係する資料の収集と整理、データの蓄積をすめ、活動の基礎としています。2013年には多くの地域住民からの協力を得て、河北潟の野生生物の生息状況をまとめた「河北潟レッドデータブック」を刊行しました。年1回の研究報告書「河北潟総合研究」の出版や研究発表会、河北潟セミナーなど、研究成果の普及にも努めているほか、河北潟研究奨励助成の公募事業も行っています。河北潟湖岸の詳細な植生図の作成、河北潟周辺のハタミミズの分布調査、内灘砂丘からの湧水の分析など、研究課題ごとにプロジェクトチームをつくり取り組んでいます。多様な人が参加することで多岐にわたる研究を行うことができます。河北潟での研究・調査に興味のある方はどなたでもご参加いただけます。いっしょに研究しませんか？

研究する！



外来植物除去活動

河北潟の水辺では2000年ごろからイネ科の外来植物・チクゴスズメノヒエが見られるようになりました。わずか数年で地域の水辺に爆発的に増え、水路の出口をふさぐ、ポンプにつまる、水面を覆い他の植物の生育に悪影響を与えるなどの問題がでてきました。河北潟湖沼研究所が2005年より始めた除去活動が、現在では市民、農家、行政等との協働事業として継続しています。行政では大型機械による除去作業を行っています。私たちの除去活動はおもに手作業です。大型機械では取り除くことができない細かな部分まで丁寧に除去し、取り残しから再び増えないよう、また他の植物まで根こそぎとってしまわないよう作業します。手間はかかりますが、こうして除去した場所ではチクゴスズメノヒエが少なくなり、在来植物が戻ってきた場所もあります。継続して手入れすることが重要な活動です。

泥にまみれる！



潟と砂丘で循環を 外来植物堆肥

外来植物除去活動では除去されたチクゴスズメノヒエが大量にできます。当初ゴミとして処分するだけでしたが、有効利用を目指し2010年から堆肥化の取組を始めました。堆肥化したチクゴスズメノヒエを使用して野菜を栽培します。畑の場所は河北潟のとなり、内灘砂丘です。水辺では爆発的に増えるチクゴスズメノヒエも、砂丘の乾燥した土地では増える心配はありません。また、砂丘地の畑は栄養が逃げやすい土壌のため多くの肥料を必要としますが、チクゴスズメノヒエ堆肥を利用すれば、そのぶん化学肥料の使用を減らすことができます。河北潟の栄養を取り込んで繁茂した外来植物を、砂丘の畑で堆肥として利用することで、河北潟と内灘砂丘で循環を作り、地域の環境問題が改善されることを目指しています。2015年には河北潟地域の住民に堆肥が配布され、普及にむけた取組が進んでいます。

有効利用する！



チクゴスズメノヒエ堆肥を利用して栽培した「すずめ野菜」

田んぼから潟を元気にする 七豊米(しちほうまい)

河北潟の周辺は広い平野で水田地帯が広がっています。「七豊米(しちほうまい)」はその一角で、市民・農家・NPO協働で農業や化学肥料をいっさい使わず、子どもから大人まで大勢が参加し手作業中心で作っているお米です。土、水、人、生きもの、米、農業、水路、みんなが豊かになるようにとの願いを込めた名前です。機械での作業が当たり前の今、水苗代で苗をつくり、田植え、除草、稲刈り、ハサ干し等昔ながらの作業をしています。この田んぼの横には土を素掘りしただけの土水路があります。コンクリートの水路が増える中、生きものや植物にとって貴重な環境がのこっています。この維持には人の手によるこまめな手入れが必要です。田んぼや土水路での作業に参加することが、田んぼや土水路、そこからつながる潟の保全になります。

作業に参加する！



生きもの元気米

河北潟地域の農家さんが「ネオニコチノイド系農薬等殺虫剤の空中散布をしない」「畦で除草剤を使用しない」という約束で栽培したお米です。栽培期間中には河北潟湖沼研究所が田んぼの生きもの調査を行い、その結果をホームページ等で公開します。お米は田んぼ一枚ごとに管理するので、購入する人はどの田んぼのお米にするか選ぶことができ、食べることで環境保全活動に参加できます。生きもの調査で田んぼの状態を見ながら、農薬はできるだけ使わない、という田んぼが地域にあることで、地域の生物多様性保全に大きな役割を果たします。この取組を続ける田んぼは生きものの記録が毎年積み重ねられ、地域の生きもの、の様子記録されます。生きもの元気米の栽培方法で農作業を頑張る農家さん、生きもの元気米をえらんで購入する方、みんなの力で田んぼの環境が保全されます。

お米をつくる！お米を食べる！



市民協働で水辺公園づくり

豊かな水辺のある河北潟地域ですが、安心して水辺に親しむことができる場所は限られています。そんな貴重な場所のひとつが「こなん水辺公園」です。河北潟のすぐ南にあり、園内には水路や池があり、子供たちが水辺の生きもの採集を楽しむこともできます。ここでは「こなん水辺公園救援隊」を結成し、市民がボランティアで楽しみながら活動しています。公園の基本的維持管理は金沢市が行いますが、そこに市民の視点をプラスし、こまやかな水辺のメンテナンス等を行っています。公園管理に使われる税金が限られているなか、よりよい水辺公園をつくるため、市民自身の力で市民と水辺をつなぐ場、市民の財産である水辺の価値を高められるよう活動しています。園内の水路の草刈、生きものしらべ、植物看板や廃材を利用した椅子づくりなど、参加者で話し合いながら活動をすすめています。

アイデアを形に！



水辺の資源活用 ヨシ舟づくり

河北潟の湖岸や水路沿いなど広いエリアに自生しているイネ科の多年生植物「ヨシ」、地域によって「アシ(葦)」とも呼ばれます。河北潟地域ではかつて屋根材や葦簀(よしず)など生活の中で利用され、状態の良いヨシを手に入れるため、湖岸に人が手を入れて管理する葦場(よしば)と呼ばれる場所があり、資源として大事にされていました。そんなヨシ原は様々な野生生物が巣をつくったりねぐらとしたりする場所です。人によりヨシが保全活用され、ヨシ原の状態が良くなることは、野生生物の生息空間をつくり、生物多様性の保全にもつながることが期待できます。ヨシの新しい活用を探るなかで「ヨシ舟づくり」を行っています。刈り取ったヨシを乾燥させたものを束ね、舟を作り、水に浮かべて乗ります。大勢で協力して、自然の素材から大きな舟を作ることは、子どもはもちろん大人にとっても貴重な体験です。

あそんでまなぶ！



オオヨシキリ



カンムリカイツブリ



マコモ



ナガオカモ/アラガイ



モツゴ



ヨシ

ヒメガマ

活動への参加・応援をまっています

活動に参加する

活動の日程や詳細内容はNPO法人河北潟湖沼研究所ホームページ等でご案内しています。

ホームページ <http://kahokugata.sakura.ne.jp>
facebook <https://www.facebook.com/kahokugatalake>

◆お問合せ

E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp

購入して応援する

水辺保全活動からできた生産物を下記よりご購入いただけます。

すずめ野菜 <http://suzumeyasai.cart.fc2.com>

河北潟湖沼研究所のお米屋さん <http://kahokugata.cart.fc2.com>



河北潟へでかけよう

さまざまな活動が行われている河北潟の水辺と農地には、たくさんの方が集まります。
豊かな植生が残る水辺と広大な農地をすみかとするたくさんの野生生物がいます。
河北潟の水辺と農地へ出向くと、たくさんの出会いがあります。



子どもたちも作業する七畝米の田んぼと、農家さんが作る生きもの元気の田んぼ



ヨシ刈りと、刈り取ったヨシから作られたヨシ舟



外来植物の除去活動がおこなわれています。(西部承水路)



水辺に見られるバンの親子



河北潟放水路とサンセットブリッジ内灘



麦秋の6月には、黄金色に輝く麦畑が干拓地にひろがります。



北方より渡ってきたカモたちが羽を休める冬の湖面



大野川は海水が混ざるため、汽水域の生物がすんでいます。



ヤナギ林



田んぼ横の土水路で外来植物除去活動が行われています。



水田地帯の一角で、手作業中心の米作りをしています。



秋、田んぼや水路で花を咲かせるミズアオイ。石川県絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。



河北潟



宇ノ気水辺公園



高い堤防がなく、河北潟の水辺と人との距離が近い場所です。湖面を見渡せるところにベンチがあり、ゆっくりと休憩できます。野鳥観察舎もあります。水際にはメダカの小群やモツゴ、タイリクバラタナゴなども見られます。

蓮湖渚公園



2008年にできた公園。湖畔沿いの道は河北潟の湖面を見渡すことができ、ミサゴやカワウなどが見られます。岸沿いにはヒメガマがあります。

河北潟野鳥観察舎



木造の高床式の観察舎。通年開館しています。湖にいる鳥をゆっくり観察できます。河北潟は野鳥の宝庫です。

こなん水辺公園



自然との共生をテーマにした水辺公園で、園内の水路や池にはメダカやエビがいます。網や双眼鏡の貸し出しがあり、水辺の生きものの採集を楽しむこともできます。土・日曜は自然解説員に園内を案内してもらえます。

柳瀬川つつみ公園



柳瀬川のつつみ(堤防)が散歩コースとなっています。東屋や屋外卓があり、疲れたときに一休みできます。水辺にアサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギやカメの姿が見られます。

アサザビオトープ



2000年頃、工事されるアサザの自生する水路の代替地としてつくられた素堀の池。ビオトープから続く水路にもアサザが見られます。水路では一時、外来植物チクゴスズメノヒエが繁殖し、アサザが消滅の危機に追いやられたこともありましたが、外来植物除去活動が継続的に行われていることで、アサザがたくさんみられます。